

貸借対照表

2025年3月31現在

(単位 円)

【資産の部】	
科 目	決算
有形固定資産	122,988,432
その他の固定資産	166,063,709
流動資産	215,381,302
資産の部合計	504,433,443

【負債の部】	
科 目	決算
固定負債	19,132,890
流動負債	113,350,114
負債の部	132,483,004
【資本金の部】	
基本金	400,000,000
繰越収支差額	-28,049,561
純資産の部	371,950,439
負債および純資産の合計	504,433,443

事業活動収支計算書

自 令和 6年 4月 1日から
至 令和 7年 3月31日まで

(単位:円)

教育活動収入支	事業活動収入の部	科目	決算
		学生生徒等納付金	112,882,200
		手数料	769,260
		寄付金	0
		経常費等補助金	9,179,291
		雑収入	51,373
		教育活動収入計	122,882,124
教育活動支出	事業活動支出の部	科目	決算
		人件費	73,515,389
		教育研究経費	10,833,636
		管理経費	54,222,822
		教育活動支出計	138,571,847
教育活動収支差額			-15,689,723
教育活動外収支	事業活動収入の部	科目	決算
		受取利息・配当金	13,685,920
		引当金戻入	1,280,000
		教育活動外収入計	14,965,920
	事業活動支出の部	科目	決算
		借入金等利息	0
		その他の教育活動外支出	
		教育活動外支出計	0
教育活動外収支差額			
経常収支差額			-723,803
特別収支	事業活動収入の部	科目	決算
		資産売却差額	6,324,648
		特別収入計	6,324,648
	事業活動支出の部	科目	決算
		その他の資産処分差額	324,264
		雑損失	1,403,510
		特別支出計	1,727,774
特別収支差額			4,596,874
基本金組入前当年度収支差額			3,873,071
当年度収支差額			3,873,071
前年度繰越収支差額			-31,922,632
翌年度繰越収支差額			-28,049,561
(参考)			
教育活動収入計			122,882,124
教育活動支出計			138,571,847

財 産 目 録

令和7年3月31日現在

2024年度

I 資産計	521,741,352
1. 基本財産	123,708,114
2. 運用財産	341,119,502
3. 収益事業用財産	56,913,736
II 負債計	132,483,004
III 正味財産	389,258,348

<u>基本財産</u>	1. 校地	351.63㎡	12,549,689
	2. 建物（校舎）	1,363.21㎡	26,252,780
	建物（付属設備）	一式	70,721,331
	3. 教育用設備、その他の機器設備、図書、リース資産		6,976,452
	4. その他の固定資産		7,207,862
<u>運用財産</u>	1. 現金・預金		209,020,450
	2. その他の資産		132,099,052
<u>収益事業用財</u>	事業用敷地	170.75㎡	5,784,545
	事業用建物	492.9㎡	5,096,192
	現金・預金		28,963,094
	その他の資産		17,069,905
<u>負債</u>	流動負債		113,350,114

2025 年（令和 7 年）3 月 31 日

2024 年（令和 6 年）度事業報告書

はじめに

本校は1930年（昭和5年）9月開設の「東京高等技芸学院」に端を発する。以来、教育の分野は変われども「学生の夢の実現のために必要な教育」を目指し、学校運営を行っている。2021年（令和3年度）4月より学校名を「専門学校 東京声優・国際アカデミー」に改称した。

I. 法人の概要

（1）学校法人東京メディアアカデミーの沿革

1930年（昭和5年）

東京高等技芸学院 創立。（昭和5年9月15日）

1945年（昭和20年）

校舎拡張のため、市ヶ谷から恵比寿の新校舎に移転

1949年（昭和24年）

財団法人東京高等技芸学校設立許可（文部大臣）（昭和24年9月9日）

1955年（昭和30年）

財団法人から学校法人に移行。

学校法人東京技芸学校設立認可（東京都知事）（昭和30年6月22日）

1964年（昭和39年）

1月、東京高等技芸学校を法人名として残し、校名を東京服飾アカデミーと改称。4月、中野校長は、永年女子教育につくした功績により、東京都知事から教育功労賞を受賞。

1974年（昭和49年）

4月、新校舎並びに学生寮竣工。（地下1階付地上9階のビル竣工）。新学期が始まる。視聴覚教育のためのVTRテレビを各教室に備える。

9月、創立45周年の祝賀式とあわせて新校舎落成式を挙げる。

1989年（平成元年）

法人名を学校法人東京服飾アカデミーと改称。

1990年（平成2年）

創立60周年を期して、学校名を東京ファッションアカデミーと改称。

1994年（平成6年）

ファッション芸術専門課程を新設し、モデル専攻科（1年間）を開講。

1997年（平成9年）

学校名を専門学校東京メディアアカデミーに改称し、併せて法人名を学校法人メディア総合学園と改称する。ファッション芸術専門課程に声優・ボーカル科、放送タレント・DJ科を新設開講。

2009年（平成21年）

3月服飾専門課程アーティストスタイリスト・デザイナー科の最後の卒業生を以って創設以来続けてきた服飾・ファッション関連の科は廃止となり、79年に及ぶ洋裁教育を終了する。声優・ボーカル科を声優養成科に改称し、声優養成科の単科となる。

2012年（平成24年）

4月1日付で学校名を専門学校東京声優アカデミーに改称し、併せて法人名を学校法人東京メディアアカデミーと改称する。

2020年（令和2年）

創立90周年。国際コミュニケーション学科を新設開講

2021年（令和3年）

校名を専門学校東京声優・国際アカデミーに改称

現在に至る。

(2) 設置する学校の定員・在籍状況

【法人】

法人名 学校法人 東京メディアアカデミー
法人認可 昭和30年6月22日
所在地 東京都渋谷区恵比寿南3-1-5
代表者 市原 光敏

【設置する学校】

学校名 専門学校 東京声優・国際アカデミー
認可日 昭和51年8月1日
所在地 東京都渋谷区恵比寿南3-1-5

【入学定員・学生数の状況（令和7年3月31日現在）】

声優養成科

・入学定員：40名 収容定員：80名 現員：61名
※1年生27名、卒業生34名

国際コミュニケーション学科

・入学定員：70名 収容定員：140名 現員：53名
※1年生51名、卒業生2名

(3) 役員・評議員・教員の概要

【役員】 理事 6名（常勤4名・非常勤2名）
 監事 2名（非常勤2名）
 評議員 13名（常勤3名・非常勤10名）

【教職員】（令和6年5月1日現在）

専任教員 14名

兼任教員 32名

職員 7名

(4) 教育用施設の概要

【校地及び校舎】

所在地 東京都渋谷区恵比寿南 3-1-5

構造

(建物全体) 鉄骨鉄筋コンクリート地下1階付9階建

(所有区分) 地下1階及び地上1、2、3階を区分所有

校地

	総面積	専用	備考
校地	383.54㎡	383.54㎡	
その他の部分	110.38㎡	110.38㎡	収益事業部 (駐車場 9台)
合計	493.92㎡	493.92㎡	

校舎

	総面積	専用	備考
校舎	1,526.18㎡	1,526.18㎡	
その他の部分	224.53㎡	224.53㎡	収益事業部

(5) 財務等の概要

※財務等の概要に関しては別紙参照。

Ⅱ. 事業の概要

(1) 主な事業の目的・計画及びその進捗状況

現在、本校に求められている人材については、「千変万化」の現代社会に対応できることが求められている。そのため、カリキュラムについても伝統を重んじながらも、新たな教育方法・スキルの習得を目指し、日頃から内容の改善を模索している。本校としては学生の夢の実現はもちろん、人間教育にも力を入れており、社会に貢献できる人材の育成という命題を果たすべく、引き続き職員一同取り組んでいるところである。

多様に変化する社会情勢下においても、本校としては「学生を第一」に考え、より良い修学環境・修学内容の策定に努めていく。

(2) 学生募集について

① 2024年度の出願、入学状況

国際コミュニケーション学科の入学者数は56名となった。(昨年度より+3)

2024年度は、地方ではなく関東を中心とした学生募集を行い、当校のことをより理解してもらった状態での出願を促した。人数は大幅に変わらないが、全員オープンキャンパスに参加していることなどから、退学率の低下なども期待される。

声優養成科の入学者数は12名となった。(昨年度より-18)

オープンキャンパスやオンラインでの説明会などを随時開催したが、参加者数を増やすことができなかったのが入学者減の要因と考えられる。また、当学科は「声優」を目指す学科だが、近年は声優のみならず「配信」や「Vtuber」など複合的な仕事をしたい学生も増えており、「声優」のみを目指す学科の在り方も、今後検討をしていかなければならない。

② 主な広報活動

a. オープンキャンパス

オープンキャンパスを月2回ほど実施。国際コミュニケーション学科は学科説明会を中心に学生へ「何を学ぶ学校なのか」「卒業後の進路」についての理解を深めた。声優養成科では、学科説明の他に「アフレコ体験」など、体験型のオープンキャンパスを実施。ただ、例年参加者が減っていったので、その他の工夫が必要となる。

b. 学校訪問、ガイダンス、出張授業

上記の通り、オープンキャンパスへの参加者数も減少していたため、直接高校当に出向いてガイダンスや説明会を行う機会を増加した。参加者は、必ずしも当校受験希望

というわけではないが、認知をとるのに一定程度の効果はあった。また、学校の先生に当校のことを知ってもらうきっかけにもなり、2回目以降は高校より依頼がくるようにもなった。

c.SNSでの情報発信

高校生等に当校のことを知ってもらうきっかけになるよう、各SNSにて情報の発信を行った。主なSNSはInstagramとLINE。専門業者には頼まず、自社内での実施したため、投稿頻度や内容が安定しなかったのが今後の課題。

(2) 各学科についての

①声優養成科について

声優養成科では、企業と連携しナレーションなどの案件やオーディションを多数実施。在校中に、より現場に近い環境で学べるような環境を提供した。また、卒業時に行う「卒業公演」を今年度も実施。200名を超える観客を動員し、2年間の成果を発表した。1年生と2年生の「交流会」も開催。レクリエーション等を通して両学年の交流が深まり、学生たちからも好評だった。卒業生の進路先としても業界を目指している学生については全員進路先を決めた。特別授業としてプロ声優として活躍している卒業生などを招き、産学連携教育の一環として、現場の声を届けてもらえる機会を設けるなど、充実した学びの時間を提供した。

②国際コミュニケーション学科について

コロナの影響もあり、今までは少人数の入学ではあったが、今年度は50名ほどの在校生を迎えて初めての年となった。そのため、学生の対応で様々なイレギュラーや新たに検討すべきことなどが多く発生し、その対応に追われた。ただ、その都度必要なルールなどを設定し、次年度に向けての準備が出来た。また、課外授業として「東京タワー」に行き、歴史を調べたり周辺の神社などを散策した。学生からも好評だったので、次年度もこういったイベントや課外活動を実施していきたい。

卒業生に関しては、全員内定をもらうことが出来、在校中に進路を決めることが出来た。来期は人数が増えるためにはスムーズな就職活動に繋がるように就職サポートを強化していきたい。

以上

監 査 報 告 書

令和 7 年 5 月 22 日

学校法人東京メディアアカデミー
理事会 御中
(評議員会御中)

監事 大内 容美



監事 鈴木 聡



私たちは、私立学校法第37条第3項に基づく監査報告を行うため、学校法人東京メディアアカデミーの寄附行為第17条の規定に従い、学校法人東京メディアアカデミーの令和5年度（令和6年4月1日から令和7年3月31日）の、学校法人の業務若しくは財産の状況又は理事の業務執行の状況について監査を行った。

私たちは監査にあたり、理事会及び評議員会に出席するほか、私たちが必要と認めた監査手続きを実施した。

監査の結果、学校法人の業務若しくは財産の状況又は理事の業務執行の状況に関し、不正の行為又は法令若しくは寄附行為に違反する重大な事実のないことを認める。

以上